

クラス	QA304	担当教員	鷲見 聡 (スミ サトシ)
テーマ	障害児・発達障害児の理解と支援		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】『発達障害の謎を解く』単著、日本評論社、2015年。</p> <p>【論文】①「発達障害の主軸となる障害の理解」『小児リハビリテーション』1巻、2018年。 ②「ニューロダイバーシティ（脳神経多様性）—自閉症と精神医学の革新的概念」『精神科治療学』33号、2018年。③「インターネット依存」『こころの科学』200巻、2018年。その他、数十編の学術論文を執筆。</p> <p>【研究課題】障害児・発達障害児の病態と支援。</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：知的障害、肢体不自由、発達障害、多様性、障害者差別問題、生命倫理			
<p>【目的】</p> <p>最近の科学技術進歩によって、障害や発達障害に関する医療・教育・保育は大きく変化してきました。このゼミでは、新しい知識を自分たちで得る方法を学び、卒業後も新たな知識を吸収し続け、時代の変化に取り残されない専門家なることを目指します。そして、人間には多様性があることを大前提としながら、障害児・発達障害児を理解し、支援できるようになることを目指します。</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 知的障害：染色体異常症（ダウン症候群など）、先天異常、脳神経疾患など知的障害の原因となる疾患の病態、支援方法、最新の知見などについて学習します。</p> <p>(2) 肢体不自由：脳性麻痺、筋ジストロフィー、骨疾患、二分脊椎などの肢体不自由について、学習します。</p> <p>(3) 発達障害：ここ10年でその概念が大きく変化した分野であるため、最新の知識が必要です。したがって、新しい知識の学習に特に力を入れます。</p> <p>(4) 多様性の理解：生命科学に関する正しい知識を学び、人間の多様性を理解します。また、色覚多様性（色弱）やLGBTなどについて、偏見や差別を解消することを考えます。</p> <p>(5) 発達に関連する課題：虐待や子どもの貧困、過剰な電子メディア使用、夜更かし型生活習慣など、現代社会における子どもたちの様々な問題について考えます。</p> <p>【授業計画】</p> <p>3年の前半は、上記(1)～(5)から関心のあるテーマを選んで、自分たちで調べ、要点をまとめ、発表・議論を行います。3年の後半は、卒業研究のテーマを意識しながら、ミニ・レポートも作成します。4年では、卒業研究に取り組み、「子ども発達学専門演習Ⅱ論文」（＝卒業論文）を仕上げます。学外活動として、障害児の通園施設などの見学を行う予定です。希望者には、自分のテーマに関連した研究会等に参加できるように取り計らいます。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>私は、小児科医として療育センターに長年勤務しました。その間に、障害の考え方や支援方法は大きく変わり、今後も変化が続くと予想されます。そのため、卒業後も新しい知識や考え方を吸収し続けなければなりません。しかし、その度に大学で講義を受けなおすことは困難であり、自分自身で新たな知識を身につけることが重要となります。そこで、ゼミでは教員から一方的に教わるのではなく、自分たちで調べて議論を行い（アクティブ・ラーニング）、「主体的に学ぶ力」を身に着けることを目指します。</p> <p>また、私が支援してきたのは、障害がある子ども、発達障害がある子ども、少し発達に偏りがある子どもなど、様々なタイプの子どもたちでした。その子どもたちをみて感じたことは、一人ひとり違っている、「多様性」があるからこそ面白いということでした。ゼミの大学生、卒業研究テーマも、画一的では面白くありません。多様性に富む、つまり、いろいろな個性の学生たちが、様々なテーマに取り組むことを期待しています。</p>			